

低炭素杯 2013 ファイナリストへのアンケート結果

調査の概要

低炭素杯 2013 の目的である、「全国各地で展開されている低炭素社会をつくるための活動を報告し、学び合い、連携の輪を広げる場を提供すること」に対するファイナリストの評価を把握し、今後の企画・運営の参考とします。

調査方法

アンケート調査票を当日に各ファイナリスト代表者に配布。イベント終了時に受付に提出されたものと、FAX での回答がありました。未提出の団体に対しては、メールにて提出を依頼しました。

調査対象 低炭素杯 2013 ファイナリスト (40 団体)

回収数 35 団体 (回収率：88%)

実施時期 2013 年 2 月 16 日・17 日

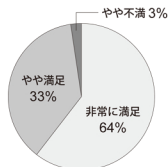
調査結果

問1 低炭素杯 2013 の内容は、貴団体にとってどれくらい満足できるものでしたか。

選択肢	1. 非常に満足	2. やや満足	3. やや不満	4. かなり不満
回答数	21	11	1	0

主なコメント

- ※ 全国大会に出場でき、社員にも環境管理活動が PR できたことから社内のモチベーションが上がった。また、グループ会社からの取組みの評価が上がり、今回の出場出来た事は良かったと思います。
- ※ ファイナリストに残ったことで地域の知名度を上げることが出来ました。
- ※ 事業を整理するいい機会となりました。担当者としていい経験になりました。
- ※ 低炭素杯自体が、まだ広く知れ渡っていないこと、どうしても CO2 削減の面に重点をおいた活動がクローズアップされがちな点でマイナスイメージが大きい。
- ※ スタッフの方々がいかいしくお世話して下さいだったので、自分の発表に専念することはできました。櫻田彩子さんの司会が、発表者思いで、好印象でした。
- ※ 様々な団体・企業と一緒にプレゼン出来た事は非常良い刺激になりました。しかしながら、私たちの地方においては、残念ながら「低炭素杯」は知名度も、環境そのものに対する意識も極めて低いため、もっと知名度そのものを上げる工夫をし、一般の来場者が入りきれないような会になってほしいと思いました。



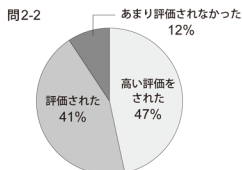
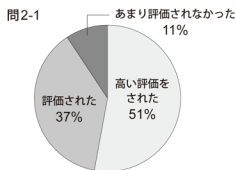
問2 貴団体が、低炭素杯 2013 ファイナリストとして選出されたことは、周りからどのように評価されていたと思いますか。

問2-1 貴団体・企業の内部の評価

選択肢	1. 高い評価をされた	2. 評価された	3. あまり評価されなかった
回答数	18	13	4

問2-2 貴団体・企業の周辺の評価

選択肢	1. 高い評価をされた	2. 評価された	3. あまり評価されなかった
回答数	16	14	4

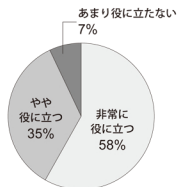


問3 貴団体が今後『現在の活動を拡げていく』ために低炭素杯 2013 はどのくらい役に立つと思いますか。

選択肢	1. 非常に役に立つ	2. やや役に立つ	3. あまり役に立たない	4. まったく役に立たない
回答数	18	11	2	0

主なコメント

- ※ 低炭素杯での受賞が地域にとっての自信にもなりました。地域の新聞にも取り上げられ、もう一度見直されています。
- ※ 他団体の取組みや特別シンポジウムから今後の活動のアイデアを得ることが出来ました。
- ※ 活動の輪を広げていくにあたり、様々な団体の方々とコミュニケーションを得るイベントであった。
- ※ 参加する意義と参加した経験を地域で伝える事で啓蒙活動が出来る。それが経済活動にもつながる可能性を見た。
- ※ ここ数年、企業や市町村よりヨシズの注文、パンフレット作成、省エネのデータなどの問い合わせが多く、低炭素杯の大会の輪が広がっています。これらが農村のヨシズ産業を復活させ、地域の地場産業を活性化させる原動力となっています。
- ※ 低炭素杯について認知度の低い地方では、ファイナルプレゼンターに選ばれたというだけで直接的にすぐ役立つとは考えにくい。しかし、きちっと説明することで周りの評価が変わることを知った。ファイナルプレゼンターに選ばれたことをデコに、われわれの活動をもっとも影響力のある活動として展開していけると思っている。

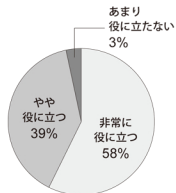


問4 貴団体が今後『現在の活動に加え、新たな活動を始める』ために、低炭素杯 2013 はどのような点で役に立ちましたか。ご自由にお書きください。

選択肢	1. 非常に役に立つ	2. やや役に立つ	3. あまり役に立たない	4. まったく役に立たない
回答数	19	13	1	0

主なコメント

- ※ ユニークな発想はとても参考になる。活動内容自体に違いがあるため、一概にあてはまるわけではないが、発想につながる糸口になる。
- ※ 他団体の発表を見て、高いレベル内容から刺激を受けた。レベルアップをめざすことにする。(活動実績、技術的に)
- ※ 様々な手法、実績を学び、自らの新たな活動だけでなく、周囲の者へのアドバイスに役立つ。
- ※ 他団体・グループの活動を見て、多くの方々と協力して行うことが必要(重要)だと思いました。
- ※ 他団体のプレゼンを見て、インスピレーションをもらった。
- ※ 参加されたファイナリストの取り組みを自社に入れられる事例、または参加できる企画があれば取り組みたいと思い、現在検討中です。また、元々やろうとしていた新たな活動に対しては、本大会が良い刺激になりましたので、背中を後押ししてくれたことは確かです。

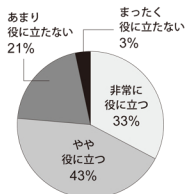


問5 貴団体が、地域で活動を行うために、特別シンポジウムはどのような点で役に立ちましたか。ご自由にお書きください。

選択肢	1. 非常に役に立つ	2. やや役に立つ	3. あまり役に立たない	4. まったく役に立たない
回答数	11	14	7	1

主なコメント

- ※ 香川大学のプロジェクトは、カフェ中心の活動は参考になった。井田さんの地域のリーダーのお話も参考になりました。
- ※ 市民・学校・企業・NPO・大学との連携の必要性を理解できました。しかし、それに行政が参加しないと本物の協働事業として発展しないのではないかと思います。
- ※ 地域おこしの話では、自分の地域を重ね合わせて聞いていました。できている所が多く、人口(人交)密度では大層は高いと思いました。自分たちの位置を再認識できました。
- ※ 交流を持つ相手の困っていることを聞く等、大変参考になりました。
- ※ 同質のグループだけでなく、地域、異業種等のネットワークによる発展が必要と感じた。ここが今後のポイントになるであろうと思いました。
- ※ 特別シンポジウムは、今の日本で問題となっている課題が提言され、今後の環境活動に役立つことが出来ます。パネリストに出場者の中より選んで、低炭素に取り組んでいる事例や活動中の諸問題について提言してはどうか。
- ※ 特別シンポジウムの中で、地域の人に自分たちの考えやしたい事を説明する前に、地域の人の日頃の不満や思いを聞き、出来る範囲で手伝いをする等の対応をしておられるとの話がありました。特に「市民を繋ぐ、巻き込む」ためにどのような対応をしているか参考になりました。

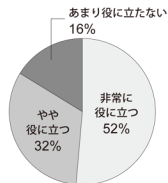


問6 貴団体が今後『他の団体・企業と協力して活動を行う』ために、低炭素杯 2013 はどのような点が役に立ちましたか。ご自由にお書きください。

選択肢	1. 非常に役に立つ	2. やや役に立つ	3. あまり役に立たない	4. まったく役に立たない
回答数	16	10	5	0

主なコメント

- ※ 他の団体等と協力する上で方向性、進め方等の実行段階でノウハウを取得する事ができた。
- ※ 一企業だけでも、大きな環境負荷軽減を進んで行うことは大事なことだと認識していますが、市役所や役場も低炭素化実現に向け、様々な取組みを行っていることから、連携をとり、更なる環境負荷軽減をする必要がある事を認識できました。
- ※ 全国的に認められたプロジェクトと胸を張って言えるようになる。
- ※ 交流会が役に立ちました。地域や活動内容が違うのですが、活動の方法、意識付けなど、ヒントになることが多くありました。
- ※ 日本全国で、同じ志をもって活動をしているメンバーがたくさんおられて、皆様苦勞をしておられることがわかって、励みになった。
- ※ ファイナルプレゼンターに選ばれたことにより、活動の方向性、内容に間違いが無かったことが示されたと感じている。1箇所での深掘りも重要だが、それをもっともっと広めていくことの大事さを考えていたところ、それを強く押しつけて貰えたと感じています。この点を強調しつつ、仲間を広げていきたいと思っています。



問7 低炭素杯 2013 について、ご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

主なコメント

- ※ 部門が異なる出場団体が同じグループで発表するのは、少し違和感がありました。2日間掛けて行われることについて、少し負担感がありました。2日間は出席できない関係者がいたため、せめて発表と表彰式は同じ日の方が良いかと思います。登壇をしない社員などの関係者席を設けていただけると良かったです。
- ※ 初参加にて、表彰を頂いた喜びももちろんですが、小中学生、学生活動の取り組み・プレゼンに大変感動いたしました。低炭素ジュニア的な、小中学生対象の企画も、良いかなと感じました。
- ※ 学生から企業、NPO 団体まで様々な取組みがこうして情報を共有しあえる環境があるのは大変素晴らしいと思う、今後の発展に向けご尽力ください。
- ※ 大変、発表しやすい環境をつくっていただきありがとうございます。練習成果を十分に発揮することはできました。小宮山委員長が冒頭でお話しされているように我慢ではなくて、良い低炭素社会を実現できるように企業活動を実現したいと思います。
- ※ 低炭素杯、出場前から、地元の新聞で大きく紹介され、冬の間、雪かきで追われる、この小さな集落が、活気づきました。また、受賞により、自分たちのやってきた事に自信と誇りが生まれています。3月10日には、地元で報告会を開催し、集落全体で、この低炭素杯を振り返り、受賞を喜びたいと思います。
- ※ ファイナリストに企業が多く、市民団体が少なすぎる。部門別の賞の枠は有るが、グランプリは全体の中から選ぶシステムとなっている。企業は別のジャンルの対象枠をつくり、市民・学校関係で金賞を選ぶ方式に変えるべきであると感じた。
- ※ トロフィーは福島の子ども達の制作のアイデアは良い。